

教養教育と宗教の意義を再考する―南原繁の知的遺産

「世界はどこへ行く」は南原繁が1969年、富山県小杉高校創立50周年記念講演として行ったもので、高校生に向けて、1. 戦争の問題、2. 福祉国家の問題、3. 文化・宗教の問題について語っています。本年の「南原繁セミナー」では、第3部の文化・宗教の問題について、公共哲学や「教養と統合知」について発言されている山脇直司東京大学名誉教授・星槎大学学長に教養教育と宗教の意義を再考する―南原繁の知的遺産」と題して講演いただきます。

南原繁は東京大学『教養学部報』創刊号（1951年）に次のような言葉を寄せています。

「教養の目指すところは、諸々の科学の部門を結びつける目的や価値の共通性についてであり、かような価値目的に対して、深い理解と判断をもった人間を養成することである。われわれの日常生活において、われわれの思惟と行動を導くものは、必ずしも専門的知識や研究の成果ではなく、むしろそのような一般教養によるものである。それは究極において、われわれが一個の人間として人生と世界に対する態度、随って道徳と宗教にまで連なる問題である」

教養教育と宗教の今日的意味について、山脇直司先生と参加者との対話を通して考えます。

日時：2022年10月15日（土）13:00～15:00

主催：南原繁研究会

参加費：無料

プログラム：

13:00 「世界はどこへ行く」講演の経緯について 南原繁研究会事務局長 秋間修

13:10 南原繁「世界はどこへ行く」の一部を聴く

13:20 （講演）教養教育と宗教の意義を再考する―南原繁の知的遺産

東京大学名誉教授・星槎大学学長 山脇直司氏

14:10 コメンテーターによるコメントと質疑応答

15:00 閉会

講師紹介

山脇直司



一橋大学経済学部、上智大学大学院哲学研究科を経て、ミュンヘン大学哲学博士。1988年4月から1993年3月まで東京大学教養学部助教授、1993年4月から2013年3月まで同教授および1996年4月以降東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻教授として公共哲学、社会思想史などの授業を担当した。2019年4月以降、通信制の星槎大学学長。

ズームミーティング方式で映像と音声を流す方式で行います。参加ご希望の方は、以下をクリックするか右のQRコードを読み取りご登録ください



[参加のお申し込みはこちら](#)

参加のお申し込みをいただきましたら、折り返し招待のリンク（URL）をお送りします。当日、リンクをクリックしてご参加ください。

お問い合わせ 南原繁研究会 association@nanbara.sakura.ne.jp